

議 事 録 確 認

「平成 29 年度大宮総合車両センター業務量等について」に関する申し入れの交渉経過において、別紙のとおり確認した。

平成 29 年 3 月 29 日

東日本旅客鉄道株式会社大宮支社
総務部 勤労課長 原 潔



東日本旅客鉄道労働組合大宮地方本部
業 務 部 長 高橋 孝



〔別 紙〕

【共通】

(組 合) 平成 28 年度業務量において提案以降「EV-E301 系量産先行車の量産化改造工事」が追加になった理由を明らかにすること。また、改造工事は要員算出の一要素であり追加によって図面や材料の遅れが発生したことから、変更が発生する場合は労使議論を行うこと。

(会 社) 次年度の改造工事については、これまで通り提案時に示しているところである。なお、EV-E301 系量産先行車の改造工事については、検討過程における工事内容の変更により、大宮総合車両センター施工に変更となったものである。また、今後とも必要な説明等は行っていく考えである。

(組 合) 「EV-E301 系量産先行車の量産化改造工事」において 1 月 4 日～2 月 22 日の施工期間にもかかわらず図面説明が 12 月初旬、納品が 2 月 2 日となってしまった原因を明らかにすること。また、改造工事における準備や作業時間を十分に確保するため事前説明 2 ヶ月前、材料は 1 ヶ月前の準備とし、遅れた場合はその理由を合わせて説明すること。

(会 社) EV-E301 系量産先行車の改造工事については、関係箇所との調整内容を踏まえた図面作成を行ったため、部品納期等が遅れたところである。なお、今後も改造工事等に必要図面や部品等については、納期を見据えたスケジュール管理を行い準備し、必要な情報等は提供していく考えである。

(組 合) 平成 29 年度業務量における特徴点、標準数が 2 名減の根拠を明らかにすること。また、一車完結の教育体制等を踏まえた本体と委託の割合とすること。

(会 社) 大宮総合車両センターにおける業務量については、検査両数の減少を見込んでいるところである。一車完結の教育体制等を踏まえ委託先会社と調整を行い、業務分担を決めていく考えである。

(組 合) 一車完結体制についてこれまでの成果と課題を明らかにすること。

(会 社) 一車完結については、車両メンテナンスを担う社員の多能工化を目的として取り組んでいるところであり、若手社員の技術継承や技術力向上において一定の成果をあげてきたところである。今後、目的を踏まえた教育計画等を関係箇所と調整等し、更に教育体制を強化していく考えである。

(組 合) 一車完結の深度化を目指し、改造工事と指定保全が重なる期間は委託会社と業務調整を行うこと。

(会 社) 委託先会社との業務分担については、直近の業務量等を考慮し調整しているところである。

(組 合) 助役・組持ちが実作業に入っている実態を是正し、作業指示・見極めを行う等の職務や役割を遂行出来る環境とすること。

(会 社) 助役及び組持ちの業務を行うため、引続き職場内で連携を図り、周知等必要な対応を行っていく考えである。

(組 合) 業務+1 業務の習得が遅れていることから年間計画でのスキルマップを作成し、アコモの業務を習得させる体制を確立させること。

(会 社) 一車完結の教育体制については、現在担当している業務に他の分野の業務を一つ加えて順次進めているところである。今後、引続き目的を踏まえた教育計画等を関係箇所と調整等し、更に教育体制を強化していく考えである。

(組 合) 組持ち・班長等の現場の声を反映させることが出来るよう職場で一車完結の議論の場をつくること。

(会 社) 一車完結の教育体制については、会議等により管理者等の意見を把握し、引続き必要な対応を行っていく考えである。

(組 合) 整備線での C 手直し件数が増加しているため、分析を行い同事象を繰り返さないよう事象の共有化を行うこと。

(会 社) 整備線での C 手直しが増加しているため、今後も関係箇所と連携し、現状の共有化を図る等削減に向けた対応を行っていく考えである。

(組 合) 平成採のライフサイクルにおいて、大量退職期を見据え一車完結を定着させると共に指導者育成のため、職場の状況を考慮した人事交流とすること。

(会 社) 検修社員の育成については、車両に関する総合的な技術と専門的な技術を有する社員の養成が必要である。なお、人事交流についてもこれまで通り柔軟に実施していく考えである。

(組 合) アドバイザーが担当する業務が引継がれておらず、定例作業を行っていることから、アドバイザーの位置づけを明確にし、制度の趣旨を職場に周知徹底すること。また、アドバイザーが退職を迎えるにあたり、職場の意見を基に業務を継承できる体制を整えること。

(会 社) アドバイザーについては、人材育成や技術継承に関する業務を目的としており、再度その目的を周知していく考えである。なお、OJTを基本とし、必要に応じた取組みを検討していく考えである。

【車体科】

(組 合) 大宮総合車両センターにおける、改造班の位置づけについての考えを示すこと。

(会 社) 改造工事については、今後の車両メンテナンスを担う社員の更なる技術力の向上に必要であると考えている。

【部品科】

(組 合) 台車搬送装置を業務量調整で実施する車両型式に合わせて対応ができるようにすること。

(会 社) 台車搬送装置については、今後の状況等を踏まえ、必要に応じて対応していく考えである。

【計画第三科】

(組 合) 契約業務において、決裁までの時間がかかり作業の負担となっていることから、件名によって決裁権の範囲を変更すること。

(会 社) 契約業務については、引続き各種法令規程に則り、適切に対応していく考えである。

(組 合) 実施後に問題点が発生した時は速やかに改善に向けて取り組むこと。

(会 社) 問題は生じないと考えているが、具体的に提起があれば「労使間の取扱いに関する協約（平成27年10月1日締結）」に則り取り扱っていく。